

総括

—— 切る力・つなぐ力としての良心 ——



冒険的生涯

良心とは？

倜儻不羈 (てきとうふき)

出会いの体験と良心

- ・ 新島はアメリカで conscience と出会い、それを「体験」した。
- ・ 新島は、抽象概念や狭い意味での道徳律として「良心」を求めたのではない。
- ・ 具体的な出会いの中で、良心の「語り」(narrative)と「実践」を体得していく。



良心の継承

- ・ 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」
(旧約聖書「イザヤ書」2章4節)
- ・ 「**一国の良心**」から「**世界の良心**」へ

キリスト教

良心とは？

世俗社会（啓蒙的価値）

現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返り、「個」の強度を高める「良心」
（内に向かう良心、個人的良心）
- ・ 共同感覚としての「良心」（外に向かう良心、社会的良心）
- ・ 国家主導の「道德教育」と一線を画する「良心教育」
（良心の越境的・対話的次元）
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践（良心の共同体）

良心の実践者となるために必要な力

- ・ 切る力（disjunctive power）としての良心
 - ・ 「自治自立の人民」（同志社大学設立の旨意）
 - ・ 「同志社は^{でまとうふ}偏儒不羈な学生を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性に従って個性を伸ばし、天下の人物を養成すること」（遺言）
- ・ つなぐ力（conjunctive power）としての良心
 - ・ 「人ひとりは大切である」（同志社創立10周年、1885年）
 - ・ 地方教育論（1882年）

「壁」を越えるために

- ・ 現代社会における「壁」とは何か
- ・ 同志社にとっての「壁」とは何か
- ・ 「わたし」にとっての「壁」とは何か